

H 2 4 年 度
「患者と家族のがん研究基金」実績報告会
Cancer Research Funds for Patients and Family

プログラム抄録集

日 時 平成 25 年 5 月 24 日
午後 7 時 00 分 (総会終了後)
場 所 千葉県文化センター 9 階会議室

主催 NPO 法人 医療・福祉ネットワーク千葉

～次 第～

- ◇ 開会の辞 竜 崇正 (理事長)
- ◇ 司会進行 風間 ゆり子 (事務局)

- ◇ 成果発表
 座長 中川原 章 (常任理事・千葉県がんセンター病院長)

- ◇ 閉会の辞 永田 松夫 (常任理事・千葉県がんセンター副病院長)

1. 『タラポルフィンナトリウムによる放射線増感治療の試み』

千葉県がんセンター研究所 越川 信子

光線力学的治療 (PDT) 用物質として厚生労働省の認可を受け保険適用を受けているタラポルフィンナトリウム製剤レザフィリンは、腫瘍集積性があり、レーザ光を病巣部位に照射することで、表層 1cm 以内の癌細胞内で活性酸素を誘導し細胞死に導くがん治療法として使用される。我々は、ポルフィリン環構造やフェオフォルバイド構造を有する化合物が一定の低線量の X 線において特異な化学反応を起こすことで、細胞死を導くことを発見した。そこでレザフィリンを用い同様の化学反応が誘導でき、より深部の癌病巣に、より低線量の X 線で腫瘍抑制効果が得られるか否かをヒト膀胱癌由来培養細胞株 T24 で検討した。

2. 『がん治療や病期により食形態が制限される患者さんの食事内容についての検討』

千葉県がんセンター栄養科 佐々木 良枝

がん患者さんは病期・病態や治療により経口摂取がすまないことがあり、悩みを抱えている方は多い。そんな時でも食の楽しみを味わっていただき QOL 向上につなげたいと、当センターで提供しているミキサー食についてケアフードの手法を取り入れて工夫改善し、冊子「がん患者さんのためのレシピと工夫」の中にミキサーケア食として掲載した。またその過程で見えてきた栄養管理の問題に対してタブレット端末 iPad を用いた新しい栄養支援を試みている。

3. 『食べ物とオストメイトの生活の質の向上～ガスと臭いに関するアンケート調査～』

千葉県オストミー協会 村山 輝子

オストメイト（人工肛門・人工膀胱造設者）排泄機能障害者と家族には、人に言えない不安と悩みがある。昨年度実施した「ガスとにおい」のアンケート調査から、今回は、ストーマ種類別の「ガスと臭い」のアンケート調査することにし、関東ブロック支部の協力を得て 2,000 人を対象に、ストーマ種類別の「ガスと臭いに関するアンケート」を行った。この結果から、みな健康には配慮していること、臭いのきつい食べ物は食べないようにしている、野菜を中心とする食品が良いと思う一方、腸閉そくや、便秘、下痢等の不安を抱えている。整腸に配慮したケアフード等で調理法を工夫することで、安心して快適な生活が送れると思っている。